

<参考> 今後の展開（各種施策）

1. スクマネジメントシステムの構築

プラントの各種規制緩和（国際基準の導入〔設計製作基準→ASME, 維持基準→API〕や連続運転、安全性の検証等）にあたっての代替措置として、リスクマネジメントシステム（企業・自治体）の構築を進める。

[代替措置＝監視体制（リスクマネジメントシステム）]（イメージ）

① 安全管理システム計画（組織体制を含む）の策定

特区内で認められた規制緩和（国際基準の導入（ASME 他）や連続運転等）を導入する場合は、これらも補完するため、代替措置として、安全管理システム計画（リスクマネジメントシステム）を策定する。

これは、現行の認定制度にハザード分析等を加えるほか、共同会社による保安組織の補完など、合理的かつ安全性の高い内容で構成されるものである。

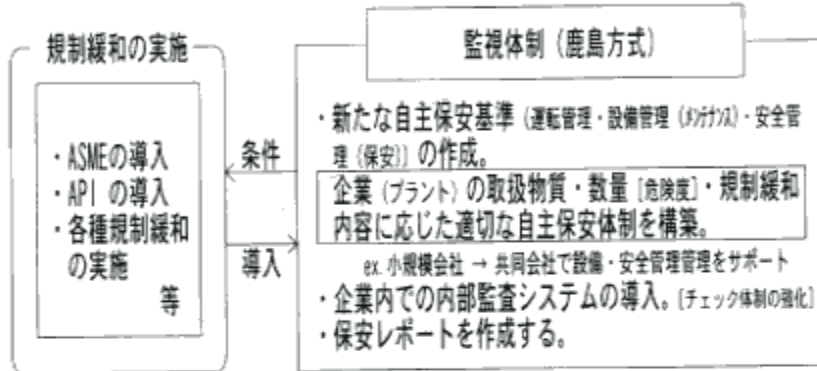
② 監視（チェック）体制

有識者、外部専門家、関係機関等で構成する保安委員会（仮称）を設置し、企業から提出される安全管理システム（リスクマネジメントシステム）について、その妥当性を審査するほか、企業から定期的に提出される保安レポートの内容の審査、遵守状況の監視や勧告を行なう。

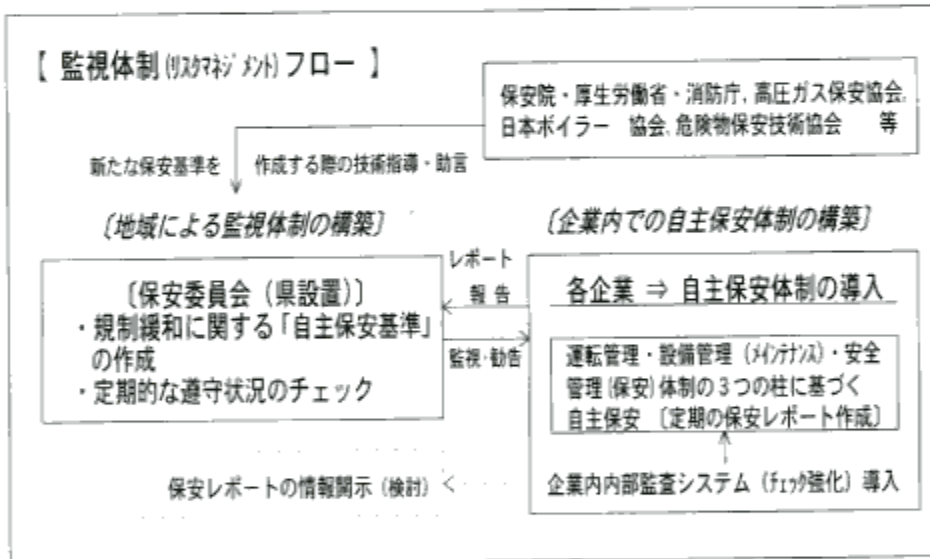
③ 安全性の検証

規制緩和に関して、安全性の検証が前提条件となっている場合については、分野毎に、有識者を委嘱し、企業が提出する資料に基づき、安全か否かについての審査を実施し、答申するものとする。

【代替措置＝監視体制(リスクマネジメント)＜検討案＞】



【監視体制(リスクマネジメント)フロー】



2. 産業クラスター戦略プランの策定

特区としての規制緩和は、企業立地の重要なインセンティブとし、さらに、鹿島のポテンシャルや企業の事業展開・方針等を踏まえて『産業クラスター形成』を図っていくための戦略や具体のプロジェクトなど、産業クラスター戦略プランの策定を行う。

また、企業本社の企画本部長クラスで構成する「ビジネスコンソーシアム」と連携を図った具体的な企業誘致活動を展開する。

産業クラスター戦略プラン（イメージ）

1. ピックプロジェクトへの参入（サハリンパイプラインの鹿島直結）

サハリン1プロジェクトにかかる太平洋ルートのパイプライン敷設について、現在調査が行われている段階。鹿島への分岐も可能のため、活用方策の検討を図る。

〔活用方法〕 → 天然ガスを用いた発電。
水素燃料の供給基地 等

・サハリン1プロジェクト概要

総投資額 約120億ドル

事業主体 4ヶ国 米 エクソン・モービル（30%）

日 カシオ石油ガス開発（石油公団、海外石油開発、伊藤忠商事、丸紅 等）
（30%）

露 ロシア・サハリン・エネルギー（20%）

印 インド 国営石油会社（20%）

開発区域 サハリン北東部（チャイタ、ボクト、アト、アト、ダギ）

推定可採埋蔵量 ①石油 23億バレル（3.07億トン）

②天然ガス 17兆立方フィート（4.200億m³）

・サハリンパイプライン（太平洋ルート）

青森～関東（千葉九十九里浜から陸路で姉ヶ崎まで） 海底部 860km

・今後のスケジュール（予定）

2001年 プロジェクト商業化宣言

2002年 第1フェーズ工事着手

2002年末 原油生産開始（日量25万バレル）

2005年 カシオ-北海道間ガスパイプライン建設に着手

2008年 天然ガス生産ガスパイプラインで日本に供給

2. 次世代エネルギープラントの稼働 (DME, バイオマス, 水素燃料等)

現在、21世紀を担う次世代エネルギーと言われるの幾つかの資源を活用するプラントの鹿島立地に向けた調整の実施。

- ① DME (ジメチルエーテル)
- ② バイオマス発電
- ③ 水素燃料 (自動車) 関連

3. 自動車, イレクトロニクス分野への展開 (素材→部品生産)

石油化学・鉄鋼産業と密接で、国際競争力の高い自動車・エレクトロニクス産業等との連携・強化を進め、鹿島の有する強みを活かした川下産業 (材料生産) の立地促進を図る。

※ 近県に立地するリードユーザー (自動車, 本田 (狭山工場・栃木工場, 日産 (栃木工場), スバル (大田工場) 等, エレクトロニクス, ソニー・東芝 (京浜)) にソリューションを提案。

ex. シックスインの純度を誇る水素の低廉供給 → イレクトロニクス産業にとっては有利。
(低温で、液体にし、極めて危険な物質の長距離運搬が不用)
各種樹脂・鉄 (薄板), ガラスなどほとんどの主要製品が鹿島で生産されている。
→ 自動車産業の立地には好位置にある。

4. ファインケミカル, バイオ, ゲノムプラントの稼働 (高付加価値) 等

石油化学プラントにおいて生成される様々な副生成物 (材料) や生産技術を有効活用できるためのサプライリストを作成し、低廉な供給体制があることをアピールし、新たな成長分野 (ファインケミカル, バイオ, ゲノム等) との連携 (ソリューション) を提案し、プラントの稼働を促進させる。

ex. プロダクトチェーンの確立

- ① フェノールチェーン (最終製品までの生産)
現在、鹿島では、ポリカーボネート (CDの原料の粒) までの生産しかしていないが、CD or DVD まで生産し、国内・海外のDVD生産拠点へ。
- ② 鹿島で無駄となっているBB留分 (=ブタン・ブタジエン) の有効活用
→ 1・4 B G (ブタジエン) としてポリウレタン等を生産
低廉な電力供給や原料供給を活かしたプラント誘致
→ IT, エレクトロニクス, バイオ (医薬中間体, 農薬等の生産) 等

5. 国際基準の導入による外資系企業との合併事業の展開

海外と同レベルの基準による高生産性なプラントが鹿島地区では設置が可能となるため、外資系企業の合併事業など、新規プラントの設置への企業誘致を図る。

ex. ・高濃度の酸化エチレンプラントの稼働 (シエルのライセンスを用いた世界中のプラントのなかでもトップレベルの高生産性プラントへ移行)
・20万トン級の超高压ポリエチレンプラント (日本最大) の設置
・ASME規格で海外から調達した部品によるプラント建設が可能に。 (低廉)